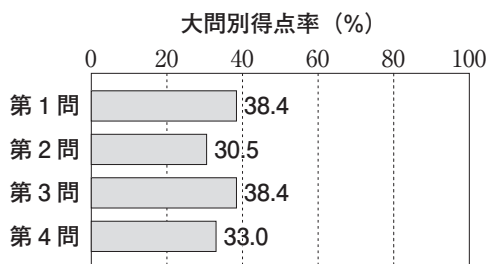
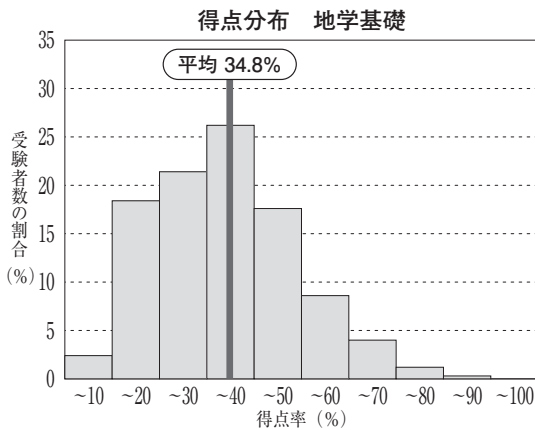


地学基礎

教科書の内容の完全理解を目指そう。

I. 全体講評

今回の得点分布は、次のようになっている。平均点は17.4点であった。2月時点で一通りの学習を終えている受験者も多かったと思われるが、十分に演習を積み、知識を定着できている受験者は少なかったようである。「地学基礎」は「地学」に比べて学習項目が少なく、教科書をしっかりと理解することで十分に満点を狙える科目である。一つ一つの知識を確実に身につけて、着実に得点を伸ばしていくようにしよう。



II. 大問別分析

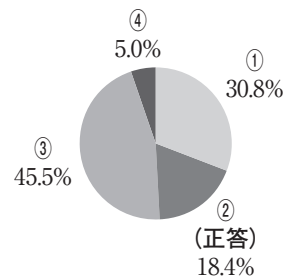
第1問 地球とその活動

地球の構造や岩石に関する知識を整理しよう。

Aでは地球の構造と密度についての総合的理解を確認した。文章を読んで自分で方程式を立て、解く練習をしておこう。

Bでは火成岩の分類についての理解を確認した。解説の図はとても重要なので、よく理解しておこう。なお、火成岩についての問題は2017年、2016年のセンター試験でも出題されている。

問3 各選択肢の選択率



※注) 無回答・マークミスは割愛したため、選択率の合計は100%にならないことがある。以下同様。

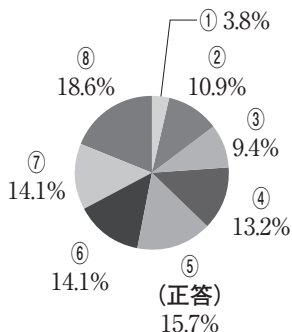
第2問 温室効果と自然災害

自然環境や防災に関心を持とう。

Aでは温室効果の仕組みについての総合的理解を確認した。温室効果に関する問題は2017年のセンター試験でも出題されている。温室効果ガスや地球のエネルギー収支について正しく理解しておこう。

Bでは自然災害についての基礎的理解を確認した。自然災害に関する問題も2017年のセンター試験で出題されている。自然災害は身近な問題として日頃から関心を持っておこう。

問1 [6] 各選択肢の選択率



第3問 惑星

計算問題にも挑戦しよう。

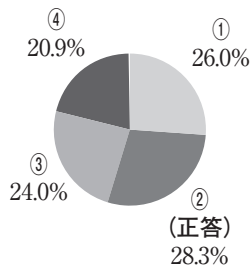
惑星の姿と太陽系の構成についての基礎的理解を確認した。太陽系の各惑星について特徴を整理しておこう。なお、地学基礎で出てくる計算問題は決して複雑なものではない。問題文をよく読んで、落ち着いて取り組もう。

第4問 宇宙と生命の歴史

知識を整理し応用しよう。

銀河と宇宙の膨張についての総合的理解を確認した。銀河の分布に関する問題は2016年のセンター試験で、宇宙からの光と生命の歴史に関する問題は2017年のセンター試験で出題されている。地質年代と示準化石についてもまとめておこう。

問2 [14] 各選択肢の選択率



Ⅲ. 学習アドバイス

◆センター試験の地学基礎について。

センター試験の「地学基礎」は新しい科目のため過去問が少なく、学習を進めるにあたって不安もあるだろう。しかし、センター試験の出題範囲は教科

書に限られている。センター試験で高得点を得るためには、「教科書」→「問題演習」→「教科書」という流れの学習方法を反復し、教科書を徹底理解することが大切である。

◆これからの学習について。

学習にあたって最も大事なことは、地学基礎は暗記科目ではないということである。

「地学基礎」の学習ではまず教科書を通読しよう。教科書を通読したら、今度はできるだけ丁寧に教科書を読んでいこう。大事なことは、各分野それぞれの論理の展開を把握することである。どのような観測や観察、実験がされ、そこからどのような考察がされているのかを理解しよう。そのために、図・表・グラフを正確に読む力をつけていこう。図やグラフを正確に読むためには、それを自分でノートに描いてみるのが大切である。描くことで、見るだけではわからなかったポイントが見えてくるはずだ。また、教科書を読むときは用語を暗記しようとするのではなく、その用語がどのように使われているのか、その論理の道筋を理解するようにしよう。

◆模試を活用しよう。

「地学基礎」にはセンター試験の過去問がまだ少なく、演習量が不足しがちである。そのため、模試を演習の一環として学習を進めていくことが重要となる。2か月ごとに実施される東進のセンター試験本番レベル模試は、全国統一高校生テストも含め年6回で「地学基礎」の出題範囲をすべてカバーするため、学習の進み方と学習の不足点を判定できるとてもよい機会である。今後も模試の受験を継続し、着実に得点を伸ばしていこう。